



皆さん、いかがお過ごしですか。

今号の一枚は、9月1日に行った野津田公園で撮ったナンバンギセルです。この日は、天候に恵まれましたが、それ以降の9月は、連日雨に祟られました。しかもその雨は、秋の長雨のしとしと雨ではなく、毎日のように日本列島のどこかで豪雨による被害が報じられるほどの悪天候です。

気象庁のホームページを開いてみました。9月1日から20日までの東京都心の日照時間は、24.8H。平年の28%です。高尾山のある八王子では、17.5H（平年比20%）、青梅に

至っては、16H（平年比18%）です。東京の9月の日照時間の平年値が126.7Hというから、いかに今年の9月が雨ばかりというのがわかります。9月20日間の降水量についても、東京の都心で平年値の約4倍です。ちなみに今年数回にわたる洪水被害に見舞われた千葉県を見ると、9月20日間の日照時間では平年値の20～36%、同じく降水量では4.2～6.6倍です。しかもこれが集中的に短時間に降るのですから、従来のインフラの設定を一気に越えてしまってます。

日経新聞によれば、ロシアによるウクライナ侵略によるCO2排出量は約3億1100万トンと推計されています。またイスラエルによるガザ侵攻の場合は、約3,200万トン、アメリカ・イスラエルによるイラン戦争では最初の2週間での推計値は約500万トンとされています。ちなみに、2024年の日本のCO2排出量は、2013年と比べて28.7%（約3億9,950万トン）の減少だそうです。この10年余りのCO2排出の成果が、上記したウクライナや中東での戦争によって吹き飛んでしまっているのです。同じ日経新聞によると、戦争していない場合でも軍事行動は、莫大なCO2を排出しています。基地などのインフラ整備や兵器や燃料の製造で年間27.5億トン、移動などの日々の活動＝移動による燃料使用などで5億トンのCO2を撒き散らしているわけです。こうした軍事活動に伴う温暖化ガスの排出は報告義務がなく、いわば野放し状態となっています。こうした日本を含めた軍事費の増加や戦争の拡大などの人間の愚かな行いが現在の気候変動に拍車をかけているのは間違いないありません。

近年の気象の激甚化を眼の当たりにすると、地球温暖化の進行が、手に追えない臨界点をこえたのでは？とか人類は自ら破滅への道を進むしかないのか？といった苦い思いを否定しきれない今日この頃です。

ところで、巻頭の写真のナンバンギセルですが、万葉集の時代にはオモイグサ（思草）と呼ばれていました。ススキの根元で俯き加減の姿が、物思いにふけっているように見えるのが由来とか。古名のほうが趣があります。日本にタバコが伝来したのが室町時代の終わり頃で、キセルもその頃ということです。ナンバンギセルと言われるようになったのは江戸時代頃だそうです。図鑑からもらった豆知識でした。

この野津田公園の続きを11月に行きましょう。秋の風情を楽しみます。

それでは皆さん、また山でお会いしましょう！